

小学四年

国語

解答と解説

1

| | | |
|----|---|----|
| 問一 | イ | 21 |
| 問二 | ア | 22 |
| 問三 | イ | 23 |
| 問四 | ④ | 24 |
| | エ | 24 |
| | ⑧ | 24 |
| | ウ | 25 |
| | ⑨ | 25 |
| | ア | 26 |
| 問五 | ア | 27 |

| | | |
|----|---|----|
| 問六 | A | 28 |
| 地 | | |
| 温 | B | 29 |
| う | | |
| ま | く | 30 |
| 光 | | |
| 合 | C | 31 |
| 人 | | |
| や | 動 | 32 |
| 物 | | |
| に | | |

| | | |
|-----|---|----|
| 問七 | 欠 | 29 |
| 点 | | |
| 問八 | 1 | 30 |
| ウ | | |
| 2 | は | 31 |
| はじめ | | |
| 生 | き | 32 |
| て | | |
| て | い | 33 |
| る | | |

| | | |
|----|---|----|
| 問九 | ア | 32 |
| イ | | |
| ウ | エ | 33 |
| オ | | |

2

| | | |
|----|---|----|
| 問一 | イ | 33 |
| 問二 | A | |
| 点 | 字 | 34 |
| 本 | | |
| B | 読 | 35 |
| ん | | |
| で | | |
| 問三 | エ | |

| | | |
|----|-----|----|
| 問四 | はじめ | 36 |
| ラ | | |
| ン | ド | 37 |
| り | | |
| の | 鈴 | 38 |
| 問五 | イ | |
| 問六 | ア | |

| | | |
|----|----|----|
| 問七 | A | 39 |
| お | | |
| 昼 | 休 | 40 |
| み | | |
| B | の | 41 |
| れ | | |
| ん | 問八 | 42 |
| エ | | |
| 問九 | イ | |
| 問十 | ウ | |

| ⑤ | | ④ | | ③ | | 問十一 | | |
|----|----|----|----|----|---|-----|---|--|
| ⑥ | ① | ① | ④ | ① | | | | |
| 公共 | 加工 | エ | 主語 | ウ | う | だ | 店 | |
| | | | エ | 述語 | れ | い | 主 | |
| 62 | 57 | 52 | 述語 | エ | し | じ | が | |
| ⑦ | ② | ② | ア | ② | か | な | 相 | |
| 半径 | 栄養 | ウ | ⑤ | 主語 | っ | も | 沢 | |
| | | | エ | 述語 | た | の | さ | |
| 63 | 58 | 53 | オ | ウ | か | と | ん | |
| ⑧ | ③ | ③ | オ | ③ | ら | 言 | が | |
| 香 | 国旗 | イ | ④ | 主語 | 。 | っ | 作 | |
| | | | エ | 述語 | | て | っ | |
| 64 | 59 | 54 | オ | ア | | く | た | |
| ⑨ | ④ | ④ | ア | オ | | れ | 点 | |
| 散 | 給料 | ウ | ⑤ | | | た | 字 | |
| | | | エ | | | の | 本 | |
| 65 | 60 | 55 | オ | | | で | を | |
| ⑩ | ⑤ | ⑤ | | | | | | |
| 残 | 漁船 | ア | | | | | | |
| 66 | 61 | 56 | | | | | | |

(配点)

①〔問四〕各2点、〔問六〕6点、他各5点
 ②〔問十一〕8点、他各5点
 ③④⑤各2点

計150点

43
44
45
46

【解説】

1 保谷彰彦の『わたしのタンポポ研究』（き・え・ら書房）

から出題しました。タンポポの生態について書かれた説明文です。問いかけの文に注目し、話題をつかんだり、「なぜなら」「ですから」などのつなぎことばに注目し、理由をつかんだり、といった基本を大切に説明文を読む習慣をつけていきましよう。

問一 B1 理由 関係つけ

——線①の直前に「このため」があることから、——線①の前の文が理由になることがわかります。そこには、「(本来の茎は)地面すれすれの葉の生えぎわにあつて、とても短いものです。茎は、根とひとつながりになっているうえ、たいてい土をかぶっています」とあります。これと同じ内容の選択肢はイです。

問二 B1 置き換え 関係つけ

——線②直後の段落から、花茎の動きが説明されています。そこには、つぼみが大きくなるにつれ、花茎が少しずつ伸び、花が咲くにつれて、「花茎はまっすぐに立ち上がり」、「咲き終わると、花茎は徐々に倒れていき」、種子が熟すまで「倒れたまままで」、種子を飛ばすため「再びまっすぐに立ち上が」る、とあります。イは花茎の変化であり、動きではありません。ウ「種子を飛ばすところにまた再び倒れる」の部分が不適切です。エは種子を飛ばすときの動きであり、花の季節の数日間の動きではありません。

問三 B1 置き換え 関係つけ

「パラシュート」は、飛行機から飛び降りたり、ものを下ろしたりするときに安全に着陸するために使う傘のような形をした道具、落下傘のことです。冠毛は風に乘って遠くまで種子を運ぶという点で、パラシュートと似ていますね。

問四 B1 関係つけ

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましよう。④を含む一文の文末は「できるからです」となっており、前文の理由を説明した文だとわかります。よつて、ここには「なぜなら」が入ります。⑧を含む段落では、ロゼットで冬を越す利点の一つ、ロゼットによって冬でもうまく光合成ができることが説明されています。⑧を含む一文、「寒い冬に、うまく光合成しているのがロゼット植物なのです」はこの段落のまとめですから、まとめるときに使う「このように」が入ります。⑨の前までは、ロゼットで冬を越す利点を書かれています。ロゼットには欠点もあります」とあるように、ここからは欠点がかかれています。ですからここには「ただし」が入ります。

問五 B1 理由 関係つけ

——線⑤の二行後に「タンポポの葉にはたいいてい切れこみはいっています。ノコギリの歯のようなかたちです。その葉の様子がまるでライオンの歯のようだから、というのが一般的な説のようです」とあります。

問六

B1 理由 関係づけ

——線⑥の直後に「ロゼットには、どのような利点があるのでしょうか」という問いかけの文があつて、これからロゼットで冬を越す利点が書かれることがわかります。「たとえば」から始まる段落には、寒い冬でも地温を利用してうまく光合成ができることが書かれています。A・Bはこの段落からぬき出せます。その次の段落が「また」から始まることに注目しましょう。うまく光合成できること以外にも利点はあるのです。そこには、「人や動物による被害も受けにくくなります」とあります。この部分を使ってCを埋めることができます。

問七

B1 知識 置き換え 関係づけ

「利点」とは、有利な点、長所のこと。冬にもうまく光合成ができたり、人や動物からの被害を受けにくくなる、ということが書かれていました。その逆ですから、ロゼット植物のマイナスの面（マイナス）の面（めん）のことが書かれている部分を探しましょう。⑨を含む段落です。そこに「ロゼットには欠点（きょてん）もありません」とあります。欠点（きょてん）は短所（たんじょ）と同じ意味の言葉です。

問八

B1 理由 関係づけ

1 光合成についてくわしく説明されていたのは⑧を含む段落です。そこを丁寧に読みます。そこには、光合成には、太陽の光と二酸化炭素（にえんかたんそ）、水（みづ）が必要（ひつやう）なことが書かれています。また、うまく光合成するには、葉（は）の温度（てんどう）が高くないといけません。また、背（せ）の高い植物（しょくぶつ）に囲（かこ）まれることで不足（じふそく）するのは「太陽（たいやう）の光（ひかり）」です。太陽（たいやう）の光（ひかり）が十分（じふぶん）でなければ

ば地温（ちおん）も温（あたた）まりませんので、葉（は）の温度（てんどう）も低（ひか）くなつてしまい、光合成（こうごせい）がうまくできなくなつてしまいます。また、周（まわ）りを植物（しょくぶつ）に囲（かこ）まれてしまうと、葉（は）も広（ひろ）げにくくなつてしまいますね。そのことで、太陽（たいやう）の光（ひかり）を十分（じふぶん）に浴（よ）びにくくなることを考えられます。ウの「踏（ふ）みつけられたりして茎（こゝろ）ごとおれてしまう」というのは、ロゼット植物（ろせっとしょくぶつ）のことではなく、背（せ）の高い草花（くさな）の欠点（きょてん）です。

2 ⑧を含む段落に、光合成（こうごせい）によつて「生きていくのに必要な糖（とう）をつくつている」とあります。

問九

B2 比較 関係づけ

本文（ほんぶん）とてらしあわせながら、一つ一つ確認（たしか）していきましょう。ア本文（ほんぶん）に「種子（たね）を飛ばす準備（じゆんび）をします。このときの花茎（はなこゝろ）は、花（はな）を咲（さ）かせていたときよりも、ぐつと長く伸び（のび）て、さらに太（あ）く丈夫（ぢやうぶ）になつていきます。高いところから飛びたつ方が遠（とほ）くまで旅（たび）ができる」とありますから、これは正しいです。イ本文（ほんぶん）に「タンポポ（たんぽぽ）のほかに、ナズナ（なずな）やオオバコ（おおばこ）、ブタナ（ぶたな）など、多くの草花（くさな）で似たような葉（は）のつきかた（つきかた）を見（み）かけます」とあります。このように葉（は）のつきかた（つきかた）をする植物（しょくぶつ）を「ロゼット植物（ろせっとしょくぶつ）」というので、ナズナ（なずな）やブタナ（ぶたな）もロゼット植物（ろせっとしょくぶつ）といえます。ウ「地面（ぢめん）をほうように四方（よつう）に広（ひろ）がる、葉（は）のつきかた（つきかた）をする植物（しょくぶつ）の「葉（は）の一枚（まいまい）一枚（まいまい）をロゼット葉（ろせっとは）」というのであつて、ギザギザ（ぎざぎざ）の葉（は）をロゼット（ろせっと）で冬（ふゆ）を越（こ）すわけ（わけ）ではありません。オ⑧を含む段落（ら段落）に、「草花（くさな）は、太陽（たいやう）の光（ひかり）を浴（よ）びながら、空（く）気（き）中（ちゆう）の二酸化炭素（にえんかたんそ）と、根（ね）から吸（あ）い上げた水（みづ）を使（つか）つて、光合成（こうごせい）をしていきます」とあります。

2

大山淳子「あずかりやさん」「明日町こんべいとう商店街」所収(ポプラ社)から出題しました。登場人物である店主は目が不自由なのですが、そのことは、読み進めるうちに出てくる「暗くても灯りは点けません」、ものを確認するときに出てのひらで二度まで「指先で硬貨を確認」、「読むことができない」「声でわかる」などの表現や、音の描写の多さから読み取る必要があります。言葉一つ一つから、場面を丁寧に想像し、文章を読む習慣をつけましょう。

問一

B1 知識 置き換え 関係つけ

① の直後に「なぜなら、看板がありません：外からはわかりにくいのです」とあります。これが「この店には「注目する」というような意味が入りますので、イの「目を留める」が正解です。ア「目をかける」はとくによくめんどろをみることに、ウ「目を光らす」は見落としたりがないよう厳しく見張ること、エ「目をぬすむ」は見つからないようこっそりすること、です。

問二

B1 置き換え 関係つけ

線②の二文前に「店主は本を読んでいます」とあります。ですから、「てのひらがページを慈しむように：なんども移動します」というのは、店主が本を読んでいる様子を描写した表現だとわかりますが、店主の目が不自由なことを考え合わせると、ここで読んでいるのは「点字本」だとわかります。

問三

B1 置き換え 関係つけ

線③の直前に、「しばらくもじもじしていました」とあることから、女の子が恥ずかしいのか、どうしようかとまよって、落ち着かない様子であることが読みとれます。「いつてらっしゃい」「いつてきます」というあいさつは必ずそこに戻ってくることを前提にするあいさつですから、主に家庭内でなされるあいさつで、ふつう、お店では使いません。だから女の子は「驚いたように振り返り」、返事をするべきかどうか「もじもじ」したのでしょう。ア「おぎなりの返事」とありますが、「おぎなり」とはその場限りのいいかげんな、という意味です。女の子の返事する様子からそれは読み取れません。イ「気味悪く、はやく立ち去りたく」、ウ「うれしく、その気持ちをおさえきれなく」など、ここまでふみこんだ女の子の気持ちは読み取れません。

問四

B1 置き換え 関係つけ

本文中で他に「ちりちりの音」が出てくる部分を探します。線②の九行後に「ランドセルにぶらさがっているお守りの鈴が、ちりちりと鳴っています」とあります。ここから、この音は「ランドセルにぶらさがっているお守りの鈴」の音だとわかります。

問五

B1 理由 関係つけ

受け取りにきた客が驚く理由を答えるのですから、直前におきたできごとを読みとります。そこには、「受け取りにきたお客さまが：名乗らずとも声でわかるらしく、『山田太郎さんですね』と確認します」とあります。目が見えない店主

が、声だけで一度来た客が誰かわかる、ということに皆驚いていることがわかります。ア「何を預けていたか、記憶してて」、エ「何を受け取りに来たのか」とありますが、ここでは客は、預けたもので店主が把握しているとはわかっていません。ウ「何を預けに来たか」の部分が不適切です。

問六

B1 置き換え 関係つけ

——線⑥が含まれる段落は、まるで見えているかのように間違いない、「手品のようにあざやか」に仕事をするさまを見て、語り手である「のれん」がなぜそのようなことができなのか、と想像している段落です。客のさまざまな情報とあざかりものがしまわれた「ひきだし」を「頭の中に持っている」とありますから、このひきだしは「あざかりやさん」の仕事を完璧に遂行できる、店主のすばらしい記憶力のたとえだと考えられます。

問七

B1 置き換え 関係つけ

——線⑦の直前に、「お昼休みです」とあり、今はお昼休みの時間だとわかります。——線⑥の六行後に注目します。そこには、「営業中かそうでないかをお客さまに知らせる重要な役割を担っています。そう、わたしはのれんです」とありました。また、本文の最後の二文に、「店主は手を伸ばし、ここでわたしをはずすと…奥へ行ってしまいました」とあります。このことから——線⑦で店主が「わたしのほうへ：手を伸ばし」たのは、のれん(＝「わたし」)を外し、お客さまにお店がお昼休みに入ったことを知らせるためだとわかります。

問八

B1 理由 関係つけ

「ためらう」とは、どうしようかとまようことです。そして笑顔をつくって、自分が目の病気かもしれないことを伝えすぐに「心配ご無用。たいしたことはないわ」と言っています。このことから、相沢さんは、本当のことを言うか迷ったが、心配させないためできるだけ明るく病気のことを伝えたのだと分かります。ア「不愉快」「この話題には触れてほしくないことを遠回しに伝えよう」、イ「病気であることを言い当てられるとは思ってもみなかった」、ウ「心配してくれている気持ちが伝わってきた」「不安を包み隠さず吐き出して」の部分が本文からは読み取れません。

問九

B1 置き換え 関係つけ

「遠くを見るような」「遠い目」などの表現は、過去のことを思ったり、そこにない風景を想像したりするときに使われます。また「微笑み」ともあるので、点字本がつないできた二人の日々をいとおしく思っていることがわかります。エ「遠くを見るような」という表現が説明されていないので不十分です。ウ「よく尽くしてきた」では一方的な関係になつてしまいます。ア「これが最後だと思い、さびしい」が本文の内容からは読み取れません。

問十

B1 理由 関係つけ

——線⑩の直前に「この目はそこまでもたないわ」とあるので、相沢さんは、目が見えなくなるかもしれないと不安になつてることがわかります。——線⑪の二行後に「本があるなら(目が見えなくなったとしても)安心ね」とあるように、

相沢さんの不安は、「本を読むことはできないかも」ということではなく「目が見えなくなる」ということなのでアは誤りです。イ「絶望した」という表現が極端すぎます。エ「病院に行かなければ：思い出し」の部分が不適切です。

問十一 B2 置き換え 具体・抽象

——線①の「それを聞いて」の「それ」は「だいいなものだから」という店主の言葉です。今まで相沢さんが作ってきた点字本を店主が「だいいなもの」と言ってくれたので、相沢さんは「涙ぐみました」。自分が作ったものを「だいいなもの」と言ってもらえたのがうれしかったでしょう。表情や行動の理由を聞かれたときは、「くのでくから。」の形で、「できごと十気持ち」を解答に入れるようにします。この場合は、「①店主が相沢さんの作った点字本をだいいなものと言ってくれた（できごと）ので②うれしかった（気持ち）から。」のように答えます。この①、②が入っていること、文末が「くから。」になっていることが採点のポイントになります。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

3 A2 知識 置き換え 関係づけ

主語と述語の問題です。まず述語から探し、それをしたのはだれか？ それはなにか？ というように考えると主語をとらえやすくなります。

① 述語は「さいた」です。「さいた」のはなにかと考えると、「花

が」が主語になるとわかります。

② 述語は「見た」です。「見た」のはだれかと考えると、文には示されていない、「わたし（ぼく）」だとわかります。ですから、これは主語のところに×と書きます。

③ 述語は「写真です」です。なにが写真なのかと考えると、「あれは」が主語だとわかります。

④ 倒置文（文が通常の語順ではない文）です。通常の語順に直すと、「君が／つかまえた／カブトムシは／大きいね」です。述語は「大きいね」です。この文の中で、なにが大きいのか、と考えると「カブトムシ」が主語になることがわかります。

⑤ 述語は「ない」です。何がないのかと考えると「病院も」が主語になることがわかります。「くでは」「くには」「くで」「く」を強調した言葉です。

4 A1 知識 置き換え

ことわざの問題です。どれも有名なことわざばかりなので、意味も一緒にしつかり覚えておきましょう。

① かつばの川流れ：どんな名人でも失敗することがあるということ。

② 将を射んと欲すればまず馬を射よ：大きな目的を果たすためには、それに直接あたるのではなくまず周辺からかたづけていくのが早道だということ。

③ 立て板に水：つかえないですらすら話すこと。

④ ちりもつもれば山となる：ほんのわずかなものでもつもり重なれば大きなものになるということ。

⑤ やなぎに風：相手に逆らわないで上手にあしらうこと。